

私書箱

☎100-91

東京都中央郵便局
私書箱 916

AA日本ニューズレター No.9

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03-590-5377 ☎160 東京都豊島区池袋 2-1083 橋ビル 9F地区委員会幹事集会の
今後の方針

文書委員会から新地区幹事会の進め方をまとめたという依頼があり、正直に言って困っています。

先日初めて地区幹集会が開かれましたが、出席された各地区幹事の考え方を聞いただけに留まり、まとめるには至りませんでした。従って議長個人の考え方を記させて戴きますのでよろしく。

初めに地区委員会幹事集会の構成について

原則としては各グループから選出された正副代議員が構成されます。因みに地区は次の10地区に分けられます。

神奈川、埼玉、千葉、城東、城南、中央、城西、城北、三多摩南部、三多摩北部

各地区委員会で選出された正副幹事、計20名で地区委員会幹事集会が構成されます。

地区幹事集会を各グループの良識を反映するところとして充実あるものにして行く為に地区委員会の進め方も考えていく必要があると思っています。

各グループがサービス活動を行っていく上で起きるさまざまな問題を経験の分かち合いの中から如何に解決し、また方向づけをしていけるかを討議の中から見出ししていくかを地区委員会の中で地区幹がリーダーシップをとっていく。サービス常任委、各委員会等のAA全体に対するサービス活動についても報告だけに終ることなく、各グループ、各地区委、そして地区幹事会で良識ある討議の中から全体で協力していけるようにすることが理想的だと思います。

当面の課題

地区委員会幹事の任務についての自覚。

まだ開かれていない地区は地区委員会を定期的に開く。

自地区全体を把握する。(地区委を通して)地区同志の交流を密にする。

各グループへの伝達と意見の吸収を活発化する。

広報委員会の抱負と方針
広報委員会

今期、広報委員会は10名のスタッフと、新たにニューズレター編集局を設けて、この2年間をあずかせていただきました。

ニューズレターも昨年12月迄に7号を、そして今年、8号より隔月ごとに発行する運びとなりました。始めは1500部から、今は2500部と、幅広く読まれてくるなかで、これからのニューズレターが『私達の新聞』と親しまれますように、わかりやすく実のある新聞となるように、スタッフ一同、心一つになって無い(?)知恵を出し合い、努力していきたいと思えます。

これまで、当委員会は、地域に根ざした地区割りの活動と全国サービス体系創りへと専念してきました。そして今、AA全体の動きがここ3~4年、急速に活発化してくるなかで、その活動が、より着実に、円滑に行われていくために、各委員会と各グループと協力しながら、『サービス』ということに重点を置いて当委員会を進めてゆく方針です。

AAの三角のマーク(回復、成長(一体性)奉仕)の一つである第3の遺産『サービス』ということでは、健全なソプラエティをしていくために、なくてはならない大切なものです。昨年11月『サービス・フォーラム』が行われた際、これからのサービス体系のスローガンとして全国の仲間たちの推薦の言葉、『求めるところに確かな奉仕を』と前向きの第一歩が打ち出されました。当委員会も、このスローガンに基づいて、サービス体系の流れを知り、動きをつかみながら、仲間、関係者との協力を大切にして、ニューズレターあるいは各催物を通じて、今のAAの現状をありのままにお伝えしていきたいと思えます。またこのサービスということを通して少しでも皆様のお役に立てたら幸いと思えます。

現在、関東地域サービスとして、代議員、各地区委員会そして幹事集会、メッセージ委員そして、サービス常任委員会と、各々濃いものとなってきました。又、個人的にも、或いは委員会を通じてもAAへのサービスの貢献をする姿——AAを知らない遠隔地へのメッセージと、新たに誕生するAAグループへの手助けへの行動——はめざましい動きとなって、各地域ごとに発展してきています。この様な状態の中で、今あらためて、関東地域のサービス体系

(2)

を見通してみた時、確かにそれらの活動はよりよい方向にあっても、それらが、現実断絶状態になってきている事実は見逃せません。

個人の回復に直接関係のある一体性の中で、全体の福利を第一に考えた時、各グループとこれらのサービス体系とが相伴って、言い換えれば、お互いにサービス仕合って、初めて全体の幸せ（福利）に通じてくるものと思われます。このサービス体系に基づく大きな土台となるのは、グループなのです。各委員会はこれらの活動のお手伝い役であり、AA全体が発展、成長していくためのサービス機関なのです。

大切なのは、グループの良識を持った愛の心そのものだと思います。その精神が、全体の福利に反映された時、これらのサービス活動が生き生きと蘇り、その源となるグループの響きがこだまとなってはね帰ってきた時、AAの三角のマークが円滑に流れ始めてくるように思われます。

広報委員会としてこれらの活動に参加できますことを感謝します。そしてスタッフ一人ひとりが力を出し合って愛と感謝の心をこめて、サービス活動の一つとしてお役立ちできますように努めていきたいと思われます。

どうか、各グループが、まだ苦しんでいる仲間たちへ愛の手をさしのべられ、このサービス活動を通して、豊かな実り多いグループに成長されますように、心より願っています。



これだけは知っておこう

文書委員会

AAミーティングの始めと終りのことば（クローズとオープン）として新しいものができました。

外国の仲間たちが使っているAAワールド・サービス社から出されているものを土台にしています。良いと思われることはやってみるということで、AAミーティングの司会者の皆様、どうぞ御利用下さい。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

<オープンの場合>

始めるにあたり、皆さんにお願いしたいことがあります。司会者が話したことも、他のどのメンバーが話したことも個人の意見であり、AA全体を代表した意見でも、このグループを代表した意見でもありません。

今日はオープン・ミーティングですので、ここにお集まりの方の中にはメンバーでない方もいらっしゃると思いますが、ここで話されたことやここで会った人のことはこの部屋にとどめておいて下さい。

今日出席している方々のプライバシーを尊重するために、写真撮影、テープ、メモ等は御遠慮願います。

<クローズの場合>

終わりにあたり、皆さんにお願いしたいことがあります。

ここで話されたことや、ここで会った人のことはこの部屋にとどめて下さい。

司会者が話したことも、他のどのメンバーが話したことも、個人の意見であり、AA全体を代表した意見でも、このグループを代表した意見でもありません。持ち帰りたいものは持ち帰り、それ以外は、この場に置いていって下さい。

うわさ話やかげ口が私たちの中ではありませんように。

そしてこのプログラムの愛と共感と安らぎが、今日一日、どこにあっても、あなたと共にありますように。



AAグループ その1「係り」

AAグループには、そのグループが健全な活動を進めていくために、いろいろな「係り」が決められています。そしてどの係りもアノニミティ（無名であること）という、AAの原理を優先しています。

したがって、AAでの肩書きは、権力も名誉も伴わないで、任務と責任をあらわすだけなのです。

それは個人の名声、地位、権威など持たないで、どの仕事も他の人々への奉仕という基盤にたって、同じレベル（平等）で、その任務、責任、分担がなされています。無名であることは、各自が理解している神のもとに、我々の回復の基礎をなすものとされています。伝統2が注意している通り、「我々のリーダーというのは、奉仕を任された僕（しもべ）にすぎない」のです。

グループのいろいろな係りは、いくつかのサービスを分担するため、グループ全員によって選ばれるのが普通です。（任期は1ヶ月、6ヶ月、1年といういろいろあるがGSR<代議員>は2年任期とする）。ほとんどのグループで、係りに求めることは、かなりの期間ソブラエティを続けていることと、あてにできるサービスをする意志と時間的余裕があることです。たいていミーティングに忠実に出席する習慣のある人の方が、欠席しがちの人より係りとしてよいのは言うまでもありません。また、その任期は、定期的な交替制で行われ、次々とすべてのメンバーに引き継がれています。

どの係りがどの仕事をするかというのはたいした問題ではないと思われます。皆んなにとって非常に大切なことは、だれが、何をするのか、を分かっていることです。

次にあげる「係り」は、代表的なグループの例として提案されています。

運営委員会（またはサービス委員会）の委員

グループ全体から選ばれた経験を積んだ小グループであるこの委員会は、そのグループに代ってグループの運営上の問題を処理していく一つの手段として設けられる。

グループ・チェアパーソン（チェアマン）

一定の任期の間、チーフの役目をする。グループの全てに通じたよき僕（しもべ）として、グループの機能がスムーズにいくために最終の責任をもつ。

そのグループとかかわりのある人々の間により関係を維持していく責任をもつメンバーで、たいていは1年以上のソブラエティの人で、グループでの他の奉仕の役目を経た後に、この仕事につくのがよい。

セクレタリー（秘書）

グループ・チェアパーソンに代行する人。チェアパーソンと同じく、グループの全てに通じたよき僕であることが必要。他の係りが一つ一つの仕事のどれかをひき受けていない時の代行もする。

会計係り

AAグループはメンバーからの献金だけで自立している（伝統7）。グループに必要なお金と、セントラルオフィス、地区委員会、GSOの維持を分担するために、いくらか余分なお金（献金）を集め、簡単な記録をつけ、グループの人たちがその収支を知っているようにする。

GSR（代議員）

全般的サービスの代表者。その人が属するグループとAA全体のつなぎ役で、地区、地域委員会を通じて活動する（地区委員を兼ねる場合もある）。AAの全世界にわたる活動が続いていくために、毎月のグループ献金を集めGSOに送る手助けをする。自分のグループを代表し、地区委員会や集会で経験を分かち合い、その地域の地域集会代表の選出を手伝う。任期2年。

よいGSR（代議員）は「12の伝統」の精神を本当に働かせる。恐らく、どの係りよりも、われわれの第3の遺産—無償でサービスする霊的責任をよく理解しているのである。

メッセージ係り

そのグループがメッセージの窓口となっている関係期間との連絡係りで地区委員会、GSOを通じて「我々のグループの目的はまだ苦しんでいるアルコール中毒者にメッセージを運ぶことである（伝統5）」を直接、担当窓口となり、他のグループとの協力を推進する。

この他にも、必要に応じてグループ独自のパラエティに富んだ係りを設けている。

（AAグループP.10～P.30参照）

広報委員



👉 ぐるーぷ 便り 👈

蒲田グループ

「この蒲田教会でステップ・ミーティングを始めた。それが日本語AAの始まりといえる。昭和50年3月のことだった。

その頃は全メンバーで10数名、初めは東京グループといていた。サー、何時から蒲田グループと呼ぶようになったかは定かには覚えていないが、50年度中だったことは間違いない。

当時は人も少なく、資料も少ない。12のステップも本文だけは訳文があった。それを基礎に始めたのだが、何もかも分からないことばかりで、アメリカ人のスピーカーに来てもらって勉強しながらやったものだ」とは、当時からのメンバーで我がグループの最年長者の話である。

このようにして、蒲田グループは、日本AAの歴史と共に13年歩み続けて来た。無から始められたパイオニアたちのご苦勞を基に、次々と参加したメンバーたちの活動がグループを存続させ、その時々の特徴をもたらしたのであろう。

この間、多くのメンバーの出入りがあり、悲喜劇も演じられた筈だ。そんな中で記憶に残る事柄を二つ紹介したい。

その一は、日本AA発祥の地(?)の誉ある、蒲田グループの名称が変わりそうになったことである。58年の頃、AAプログラムで奇蹟を起こそうよ、楽しもうよ、と、意気盛んな仲間の提案で、一時ミラクルの愛称をつけた。だがミラクルは自然消滅した形である。現実の厳しさに目覚めたのか、蒲田への愛着が強すぎたのか、よく分からない。だがミラクルを求める気風は確かに存在する。活気に満ちた時期であった。

その二。十周年記念行事を機に、地元に着した

活動を、との方針に従って、中原と鹿島田の会場が川崎グループとして分離独立した。当然、数人の仲間と別れることになった。その後もまた、新しく玉川グループが蒲田のメンバーに依って創られた。一人のメンバーとしては寂しかったが、AAの成長のために(?)まだ苦しんでいる仲間のために・・・などと、諦めたり、意気込んだりした時期であった。

サテ、今日一日に生きる我々の現状は?

城南地区に属し、品川、大森南区を地盤として、目黒、大森、大崎、蒲田各教会を会場とし、週6回のミーティングを行っている。ステップ、クローズドは勿論、伝統ミーティングが月に1回、他グループのスピーカーミーティングも月に1度、特徴の一つとして3ヶ月に一度位だが、専門家をお迎えしての、オープン・スピーカー・ミーティングを持っている。

更に、わがグループを構成するメンバーだが、文字通り老若男女の集まりである。みんな個性豊かである。豊かすぎる個性の持主もいる。時には飲んで現れる『つわもの』もいる(決して望ましくはないが、やめたいという願望を信じて待つ忍耐力もグループにはある)。当然、よい事ばかりではない。時には空中分解しても不思議はない事態も起こり得る。が常に事は始まり、うまく進んで行く。これがAAの持つ不思議な力の為せる技であり、我がグループの『良さ』であると自認している。(どのグループも同じですね)。我が長老がよく言う。「一緒に始めよう。それをするのは、他のだれでもない、この私である」。これが、我がグループを支え続ける原動力である、と思う。



「12ステップと 12の伝統」 値下げのお知らせ

昭和63年2月1日より、「12ステップと12の伝統」の価格が従来の2,500円から2,000円に値下げになりました。
詳しくはJ50までお問い合わせ下さい。